

平成30年度 全国学力・学習状況調査公表

<国語 A・B>

○良くできている内容

【国語 A】

- ・「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」は全国平均より約11%高い。また、「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」も全国平均より約8%高い。

【国語 B】

- ・1問を除き全国平均よりも高い。なかでも、「文章の構成や発展について自分の考えをもつ」は全国平均より約11%高い。

○課題

【国語 A】

- ・「行書の基礎的な書き方を理解して書く」が全国平均より低いため特に課題である。

【国語 B】

- ・全国平均よりも下回った項目は、「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」である。

- 話し手と聞き手だけでなく、その場の様子を観察する立場を設け、発表の進め方等についてそれぞれの立場から検討するなどの学習活動を取り入れていく。

<数学 A・B>

○良くできている内容

【数学 A】

- ・「多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している」は特に全国平均より約18%高い。また、「絶対値の意味を理解している」、「数量の大小関係を不等式に表すことができる」、「四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の1/3であることを理解している」は全国平均より約10%以上高い。

【数学 B】

- ・2問を除き全国平均よりも高い。なかでも、「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる」、「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる」の正解率が高い。

○課題

【数学 A】

- ・「連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の2直線の交点であることを理解している」が全国平均より低いため特に課題である。

【数学 B】

- ・「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」が全国平均よりも下回った項目である。

- 実生活の場面で事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理できるような活動を小集団で説明したり、仮説を立てて考えを発表する活動を取り入れる。

<理科>

○良くできている内容

【理科】

- ・2問を除き全国平均よりも高い。なかでも、「オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる」、「化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる」の正解率が高い。

○課題

【理科】

- ・「炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、変えない条件を指摘できる」、「反応の時間を測定する装置や操作を計画できる」が全国平均よりも下回った項目である。

- 観察をしたり、実験をして結果を予想したり、実際に計算する活動を通して小集団で考えたりする学習活動を取り入れる。